

おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP)

特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会

理事兼事務局長 楊森(やん みゃお)

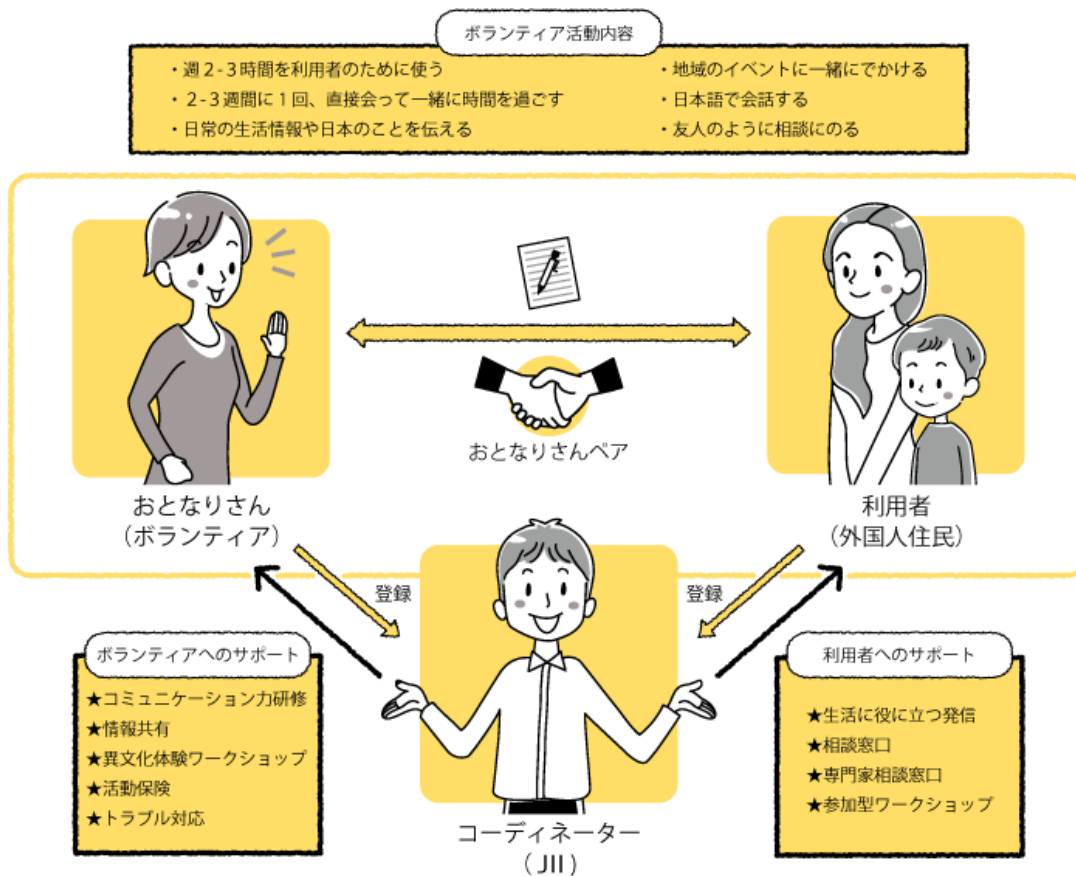
応募する活動名とその内容

日本に住む外国人数は288万人に達し(2020年)、今後も増加傾向にあります。日本社会の国際化がますます進むのに対して、外国人住民への支援や、社会における相互理解にはまだまだ課題が多くあります。今回応募するプログラムは市民ボランティアが主体になり、外国人住民をサポートし、交流を深めるプログラムです。2019年から東京を中心に活動してきました。

活動名:「おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP)」(以下OFP)

活動の仕組み:

OFPは、地域に住むおとなりさん(日本人ボランティア)と外国人住民とペアを組み、半年間一对一の交流を通じて、外国人住民が日本での生活、文化、日本語、地域コミュニティなどになじみやすくなると同時に、相互の文化理解を深め、地域に文化共生を促進するという画期的な仕組みです。



【プログラムの優れた点】

① 一般市民が主体となり、日常におけるサポート、異文化交流を活性化させる

一般的に外国人支援活動を行うのは、一部専門性のある支援員によるものが圧倒的に多く、課題の共有や外国文化への理解も関係者の輪に限定されることが多いです。それに対して、OFPは一般市民が活動主体となり、特別なスキルや専門性がなくても、生活者としての経験がそのまま活かして十分に活動できるため、各地域に住む一般市民の日常生活の中で、同じ地域に住む外国人住民と関わり、助け合い、生活文化を交流するという新たなプラットフォームを提供しています。なお、交流活動に対して、コーディネータが定期的に交流状況を把握し、必要に応じペアの調整も行います。また、より専門的、複雑な課題に対して、多分野の専門家チームによる相談体制ももっています。さらに、ボランティアに対する研修や交流会などのバックアップによって、単なる偶発的な興味ではなく、外国人住民と日本人住民が安定した関係性の中で、安心して活動できるようになります。市民の中に眠っている「異文化について学びたい」「外国人住民と交流したい」などニーズにこたえと同時に、外国人住民の暮らしやすさも向上させ、社会における文化共生の理解を深めることにも貢献で

きます。

② 顕在化されていない問題にアプローチできる

外国人住民が抱える顕在化された問題に対する行政サービスや支援活動が主でしたが、OFPは日常的なコミュニケーションによって、明らかな悩みや困りごとはもちろん、潜在的な不安や専門機関に相談しにくい問題などを含めて、問題が表面化する前に感知できることも多い。日常生活、育児、生活習慣、近隣とのトラブルなどを早い段階で発見し、適切に対応することによって、地域での文化的摩擦や孤立感の緩和などには大きな効果を発揮できます。

③ 効率よく効果的に情報発信できる

外国人住民にとって大きな悩みの一つは、必要な時に必要な情報が得られないことです。一方、外国人支援機関の悩みは、大切な情報を外国人住民に届けられていないことです。OFPでは、各地域に住む大人数の日本人ボランティアが情報発信の役割も担っています。それぞれ異なる状況に置かれている外国人住民の様々な疑問に対して、個々のニーズや状況に合わせて時間と地域を越え、的確に日本の情報を伝えることができます。日常のことに加え、感染症、地震、台風、自然災害に対する備え方などの非常時にも効果的な情報発信手段になり得ます。

【独自性】

OFPは外国人住民のリアルなニーズに基づいて考案された仕組みです。元代表自身が日本に暮らす外国人としての実体験を持ちながら、外国人コミュニティにおいて長年生活相談を受けてきました。当事者の視点と支援活動の経験からヒントを得、外国人住民の課題を解決しつつ、日本社会との相互理解も深めるという2つの効果を重視して試行錯誤した結果、OFPの立ち上げにたどり着きました。当会の調査では、OFPは当会のオリジナルプログラムであり、日本では同じ活動を行う団体は他ありません。

【ボランティアの声】

「日本に暮らす外国人の役に立ちたい」

「自分が海外に暮らした時に現地の人に助けられたので、同じようなこととして恩返ししたい」

「自分の異なる文化や価値観を知ること、自分自身の枠を広げたい」

「子どもの教育にグローバルな環境を体験させたい」

「人の役に立ちたい」

「ニュースで日本に住む外国人の生活の難しさを知り、何とか力になりたい」

「語学の力を伸ばしたい」

などのコメントから、OFPは多くの市民の中に眠っている国際交流のニーズにフィットしていることがわかります。

【外国人住民の声】

「このプログラムが素晴らしい、外国人にとってとっても必要だ」

「もっと早く参加したかった、過去に困ったことがたくさんあった」

「日本語をうまくになりたい、日本人の友達がほしい」

「日本の文化やいろんなことをもっと学びたい、日本人と交流をしたい」

「このプログラムは日本の国際化にはとても有効だ」

「コロナでとても孤独で、日本に住んでる感じがしない。気軽に話せるおとなりさんがほしい」

「奥さんは日本で初めて妊娠、出産するけど、日本語も日本の習慣も分からないから、おとなりさんがいてとても助かった」などの声も多くありました。OFPは外国人住民が求めている確実な情報、そして、日本人、日本社会との直接つながりたいというニーズにも確実に答えています。

参加者の声から分かるように、OFPは日本に暮らす外国人にとっては、従来の情報源やコミュニティと異なる新たなチャンネルであり、日本社会に直接アクセスできる貴重な機会になっていますし、日本人住民にとって、国際交流、文化共生を実践し、社会貢献、自己啓発、言語力の向上、子どもへの国際教育など様々なメリットをもたらす場にもなっています。

【地域にもたらす共生効果】

OFPは地域において、既存のコミュニティ（日本人住民）と新たな住民（外国人住民）との間を、これまでにない形で結び付け、リアルな人間関係を築きながら、日々の暮らしの中の課題を解決し、共に暮らしながら新たなコミュニティや地域文化を醸成していくのに有効な仕組みです。

① 外国人住民の文化や社会への理解を高め、地域に根付かせる効果

外国人住民にとっては、身近にいる相談者を見つける新たなチャンネルができ、ボランティアとのコミュニケーションを通じ、日本社会の常識やルールを理解し、日本語力が向上し、地域住民とのつながりを持ち、地域の一員として孤立せず、周りとの付き合い方やトラブルの際の対処方法などをよく理解できるようになり、周

困と調和しながら暮らすことができ、地域への参加意識も高まります。

② 地域市民との相互理解を深める効果

日本人ボランティアにとっては、外国人住民の日常の困りごとを解決すると同時に、地域文化・情報の発信者となり、地域住民と外国人住民の相互理解を深めるつなげ役になります。また、ボランティア同士で、文化共生とテーマとする新たなクロスコミュニティを形成できます。外国人住民との交流経験、課題、解決方法などが広く共有される中、外国人住民に対する理解が深まり、ボランティア個人のコミュニケーションスキルも向上します。

③ 地域課題を解決し、文化共生を促進する効果

地域住民にとっては、地域に暮らす外国人住民へのリアルな認識が広がり、地域における文化的、社会的な摩擦を最小限に減らしつつ、同じく地域の住民として受け入れ、地域課題を共に解決することができるようになります。